



永久百首校本

特別
イ 4
3163
56



山百首ハ七十四代多羽院の字永久四年十一月廿日奏覽也

貴 14 3163 56

世にけ玉をそと二郎玉そと呼ぶハ七十三代堀川院の字大納言公実ハ初て
百首の部を従て人ハ勸進してよませらるる一ハ守一ハ水一ハ上後
ありとて小ハ公実ハの勸進之をそ玉を従ての鹽鯛五ハ世にけ玉を
堀川院大納言と稱し或ハ初度の玉そとも初玉そともありとて後
七十四代多羽院の字永久四年ハ堀河仙洞の字ハ初て玉をそと
再ハ一ハ作らあそと玉をそ玉をそとよりて多羽院の字といハ世に
堀川の二而玉そと稱とて堀河仙洞の書起る小ハ堀川の字二玉そ
の玉そハ二而玉そとてハ初度後玉の玉そよりて玉そハ初て
玉所とて玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所
玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所
玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所ハ玉所

百首和歌

永久四年十一月廿日
七十四代多羽院の字

題

春十八首

元日	餘寒	春日
春曙	遊絲	踏弓
春日祭	石清水臨時祭	志賀山越
稻荷詣	未發花	紅梅
桃花	落花	躑躅
雉	殘雪	蛙

夏十二首

後百

2

賀茂祭

四月中酉日
酉三十一後酉

夏夜

夏草

瞿麥

扇

樹陰

避暑

夏虫

橋川

夏猫

蟬

水雞

秋十八首

殘暑

晚立

秋風

七夕後朝

八月十五夜

九月九日

秋夜

曉月

嵐

稻妻

稷田

草香

葛

作

秋山

和虫

鈴虫

螢

冬十二首

霽

初雪

野行

落葉

大雪

指染

菊

衾

卷

負調

仙名

舊年

冬十首

忍

隔一

經月

經年

滿堂

不見書

且見

寢覺

待人

別志

雜三十首

雲石澗古極元仙妓
宮服

星水海 社小 唐人 老人

出湯 原故 排岸 古秋 王昭君 泉邸

水筆

歸蟻

笛猿

おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから

稲荷箱

おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから

おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから
おもしろいことあるのだから

散木
風物書上

新病ゆかりてなほあつらん
くれな井はしあぐえにまぐしひすれ
「志れ多し下もあつらん
中よ事もなつしきうれはあつらん
あつらんしきうれはあつらん
みらんれあつしきうれはあつらん
うすくれなわれあつらん
きんらんあつしきうれはあつらん
くれな井あつしきうれはあつらん
いんらんあつしきうれはあつらん

仲夏

後頼

忠房

兼昌

常澄

いまはさそむし梅れをのつれ
大を

桃苑

かきあつしに校ゆしあつらんれ
くれな井あつしきうれはあつらん
うすくれなわれあつらん
きんらんあつしきうれはあつらん
くれな井あつしきうれはあつらん
いんらんあつしきうれはあつらん

聖伴

仲夏

後頼

忠房

散木
なほ久し梅を
三てあつらん

あま川松のれ離子なるもの
仲実
いそいそなるものありあへるほいね紙
あふありともやとりれ紙端ん
後教
まてすれものせうすまふつと紙を
ゆうとも紙の紙の紙の紙の
出房
ありくは紙を紙の紙の紙の紙の
魚呂
ふすま紙の紙の紙の紙の紙の
常陸
すの紙の紙の紙の紙の紙の
みりれ小

わくわくしてきこすれく也
大を

孫常

あま川松のれ離子なるもの
仲実
いそいそなるものありあへるほいね紙
あふありともやとりれ紙端ん
後教
まてすれものせうすまふつと紙を
ゆうとも紙の紙の紙の紙の紙の
出房
ありくは紙を紙の紙の紙の紙の
魚呂
ふすま紙の紙の紙の紙の紙の
常陸
すの紙の紙の紙の紙の紙の
みりれ小

出房

あまのりつゝいづれあなをくくれば花 大正

扇

ついでよりあまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

樹陰

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

あまのりつゝいづれあなをくくれば花

扇

さく水雞うさつりし

大正

秋十八首

残暑

ひもくなりせしれもろもわきまられ
 いましく色をうかきてはもろも
 秋をうらそれよれうをさす
 赤紙をれ月乃うきなる糸
 赤きそへいせひやう形うられもあつ紙
 赤川さ志あつひむつう紙や
 赤川赤きれまてすくもあつ紙に
 赤川さもなてな川や紙

秋仲

仲実

信賴

忠房

散木

七
おら月たのりいりくももさゆひお
かひてのひらあさけううか 蕙
あさけあつ月たのりいりくももさゆひ
志月とらふふらあさけううか 常陸
いもたらぬのあさけけつ西色うすくは
もももみえすすすす月を 大

九月九日

くれまぬいのちたつあふたの法も
まもつあさけううか 蕙
くまももみえすすすす月を 大

散木九月九日
のちあてしと人かや
水たまり

中もせれたのりいりくももさゆひお 仲夏
らる線みいさゆあつあさけけつ西色うすくは
あつあさけけつ西色うすくは 後
いもたらぬのあさけけつ西色うすくは
綿をさあさけけつ西色うすくは 出房
あつあさけけつ西色うすくは 蕙
あつあさけけつ西色うすくは 常陸
あつあさけけつ西色うすくは 常陸

出房 蕙 常陸

ふらふら 備後 とうとう
うとうとう 昭記

あきつらふもあはれもあらぬのちのちのち
しあふもあらぬのちのちのち
藤山おろすもあはれもあらぬのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち

稲妻

けつりや田中らけつり
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち

あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち
あはれもあらぬのちのちのち

あはれ

あはれ

川乃よきふうはてそら
 いくらもれうのなやつさあき舞
 いそれらりる石もまはして
 いろりもいもいそそそそそそ
 かも秋うまよに石守りたり
 あまれうの花よけのけいさく
 青うつらわいん我衣あふ
 いろそそそそそそそそそそ
 ことひはなをなううううう
 ちらもろいあふあうらうらうら
 出房 後頼 昌昌 常陸

くはれもろそなうううう
 大正

鳥

きよまれううううぬ枝のみえぬ
 かろく草中ら紅葉あふなり
 田豆木あふらふわづらうらう
 とそそそそそそそそそそ
 ちさりあうそそそそそそそ
 けもや木すそれうそせぬ
 ちよほられをそそせらねら
 ちよほられをそそそそそそ
 出房 後頼 昌昌 常陸

和名抄女貞多都乃木

散木註

万八 秋山 秋山 秋山
又かきつゆもとも
つらき鴨をひのこふ
也元

けしきけりし秋山 志しき 大を

秋山

ちやうくもみまうし時節は
しつらふ山秋山のうらたを
すくもくおをまは山も秋られは
はゆれまうくまもまらせり
ちやうくもみまうし時節は
すくもくおをまは山も秋られは
はゆれまうくまもまらせり
ちやうくもみまうし時節は
すくもくおをまは山も秋られは
はゆれまうくまもまらせり

仲実 俊頼 忠房

いづくもみまうし時節は
しつらふ山秋山のうらたを
すくもくおをまは山も秋られは
はゆれまうくまもまらせり
ちやうくもみまうし時節は
すくもくおをまは山も秋られは
はゆれまうくまもまらせり

秋山

このあつらふつらふ
いすやくと松山 秋山
松むら乃むら乃

仲実

打ちく梅の志をうけはせしむるにみゆれども
 多かりの目も心もあふくさして
 三木枝をわらへ梅をよこりく梅をよ
 あさけのゆけれ煙心なり
 志のゆきをうけしむるにみゆれども
 誰ゆかゆらたふらぬ
 大を

念

久ほしむるの心のあけぬも
 わきれくもなむらりなり
 あせいもくわらぬわらぬけり

人々の梅の志をうけはせしむるにみゆれども
 多かりの目も心もあふくさして
 三木枝をわらへ梅をよこりく梅をよ
 あさけのゆけれ煙心なり
 志のゆきをうけしむるにみゆれども
 誰ゆかゆらたふらぬ
 大を

新本

新本

潜按按御馬何系
正とあるハヤウ

あはれおぼれはすわらうのりつりや
しらあつ月とら子あつり
ころもてもなうふおんじり
月とらつりつるあつり
かきつる三月おつりあつり
ころ海はくしれとてあつり
あはれおぼれはすわらうのりつり
みそつりあつり
からつりあつり

經月色
一本次歌在此此歌在歌集上歌次下
在記有之

仲実

仲実

俊頼

忠房

レロイ

あはれおぼれはすわらうのりつり
ころもてもなうふおんじり
月とらつりつるあつり
三日月つりつるあつり
みそつりあつり

兼昌

常陸

大を

經年色

歌仲

仲実

夕昏しそ此園ふさつらあやあ〜
わさ〜ひら〜うらほく〜れちちと球^不
ゆきあ〜りてもいつあつ〜
おもひあもりゆけ〜るけき玉^不ほとれ
みられう〜のひま〜
大を

不見書白紙

お月つ〜れさ〜ちれ〜
か多〜そ我ら〜
う〜さや〜れ〜
わ〜ら〜

兼昌

常陸

秋仲

仲兵

いさや〜
と〜
つ〜
あ〜
わ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜
あ〜

後頼

出房

兼昌

常陸

大を

後方

仲兵

目見恋

みるもなほありあはれはなほあり
 一とくさくさくさくさくさくさく
 うきうきもあはれはなほあり
 くれともあはれはなほあり
 ひえれ山をたふすけいあはれ
 ちかきうきうきうきうきうき
 ありあはれはなほあり
 けくわなはんおもしろく
 ちかきうきうきうきうきうき

群伴

仲実

俊頼

出房

兼忠

常陸

大工

宿覺見恋

うらやましくあはれはなほあり
 おもしろくあはれはなほあり
 ちかきうきうきうきうきうき
 ありあはれはなほあり

群伴

仲実

あさきしやあさきあてられお新しき
ゆめあきらきりけし神のつらさ
こころをたふしけりいふたをうらさ
なほもてきりてあさきあさき
ゆめあきらなほきりあへぬあしあれ
わがもてあてあさきあさき
うさきあさきあさきあさきあさき
あさきあさきあさきあさきあさき
あさきあさきあさきあさきあさき
あさきあさきあさきあさきあさき

後頼

世房

兼常

孝法

大正

待人数

いづつられちまひりたつらにまづや
まづいづつられちまひりたつらに
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ
いづつられちまひりたつらにまづ

孫伴

仲実

後頼

世房

待人数

待人数

雲 雜二十首

ちりまをれ山ふ八色いりきくも
 そらふもさびくらしふまはれ
 まらうてめを連し身すもありしれい
 とをばうらひりききれ白くも
 くらやうしうまふもさびくうさきと
 雪けれそとと難きばら
 ちりまをれ山ふ八色いりきくも
 そらふもさびくらしふまはれ
 まらうてめを連し身すもありしれい
 とをばうらひりききれ白くも
 くらやうしうまふもさびくうさきと
 雪けれそとと難きばら

仲実
 敬仲
 仲実
 後頼
 忠房

ちりまをれ山ふ八色いりきくも
 そらふもさびくらしふまはれ
 まらうてめを連し身すもありしれい
 とをばうらひりききれ白くも
 くらやうしうまふもさびくうさきと
 雪けれそとと難きばら

善思
 常澄
 大五
 仲実
 敬仲

潛垢 橋後鑑行長
夫木集 いちしある
根にいつるなしうめ
ういふきぬにもある
げうにふれハセウの
替ふへし今一志即七
栗とよみりしうハ言
の妙信流とあるハ
あ

あひまれ山ふ志のゆは
世れ人ろくふれやまふれ
七くめれゆろく見く
うきいともふひさあ
やうそゆれりさう
石
あまふれわくさう
あつるもみえすれ
中しうろ川激れい
あまふれりともな
伴
石
あまふれわくさう
あつるもみえすれ
中しうろ川激れい
あまふれりともな
伴

磨
劫

伊勢系 浦ちと流
立すつて川ちの
かむいさふあす

石
あまふれわくさう
あつるもみえすれ
中しうろ川激れい
あまふれりともな
伴
石
あまふれわくさう
あつるもみえすれ
中しうろ川激れい
あまふれりともな
伴

女
目

女
目

水海

わさささいされは海も川もわささ
 さささやすすんぬらうらうら
 けなまやまのよたらそん渡さ
 らぬらうらささよらむらての
 夕はくひえされうらうらま
 雲すさうらてまのすすけぬ
 道に海も川もわささ海も川もわさ
 されうらうらささよらむらての
 いらうらうらそてもうらうらうら

後頼
 出房
 仲実

い
て
い
て

うらうら乃溪は波打さささ
 うらうら海も川もわささ海も川もわ
 ささうらうらよわされうらうら
 うらうらわささわささわささ
 大を

兼
 常陸

東

もささうら
 大を

仲
 実

仲
 実

ふりてつらんまはく萩原時敏
去つて小神をたごる
すみれつとこらや
ありとつたなるろつた
あさちつたつとふうし
河しとれあうつと
枝もらんつとれちと
それ神世つとらとれ
みちとれつと自もつと
それつとつとつとつと

後頼

出房

善高

常陸

大正

歌

あどろつとつたなるま
たえせはらとつたなる
木すさつとつたなる
よふとつたなる
そらつたなる
かろつたなる
れつたなる
なつたなる

歌神

伴美

後頼

出房

後百

三日月乃御一乃其手なるん 善昌
守其志をいふくちなりぬいそれふらん
あつちやいふれぬれちるんを 善隆
ゆふもすさうけていれぬいさういん
ねいさうさうあやちるんを 大を

柿

ゆふてやうけつらうさしれさく
ゆふさうえん志きる のい
志きけとあもつらあはら む
さうさう中せれさうなるん 又
伴其

散本神祇

柿葉をかんれさむらとあつち 又
ゆふけとれおらなるん 後
柿代ゆらうもあつらあはら 又
さうさうさうあはら 出房
伊勢山ゆふは志きる 又
ゆふさうさう柿 善昌
新代乃あもつらあはら 善隆
柿代ゆらうさう 大を

岩鹿と石にて作せる
柿代あり

散本

〇六二七

菰木 夏より秋に
葵をよけて人の
はうり

桂

天はまはるい法時毎して秋乃萩
月のうらみ色あはるなるん
わが身はいつくさくせも物なき
うらみはえりもむすそ有る
人へれどかあをいまのやん
うらみ枝を折るよす
はまはれさう海はやみまの
えりきたおぬ月うらを
なり月乃月れひうられはゆら萩那

影解

仲実

後頼

出房

善昌

常陸

大を

小藤

うらみの枝よりまのやどるん
祇山れうらをねまは月れ
うらみもかともあや
うらみは月のうらみこ
うらみもあまの物とそ
あまのゆら小藤はまはるる物
うらみはるそやうれはる
うらみもあまの物とそ
うらみはるそやうれはる

仲実

仲実

はく杖つきてくふもくしほ 蕙思
さく月の心はほのくはくらんまの
かきくすくはくはくはくはく 常陸
くろくもくはくはくはくはくはく
いとくはくはくはくはくはくはく 大を

泉邸

黒うしあきあきいほくあまはくはくはく
麵つろよやなまはくはくはくはく 於件
れはいそいあきあきあきあきあきあき 件
あまあきあきあきあきあきあきあき 件

ひくはくはくはくはくはくはくはくはく 後頼
かきくはくはくはくはくはくはくはくはく 出房
あまあきあきあきあきあきあきあき 兼思
うきくはくはくはくはくはくはくはくはく 常陸
かきくはくはくはくはくはくはくはくはく 大を
あまあきあきあきあきあきあきあき

歌

歌

舟

おそらうやとものくわそむを海拾く
 わしとておまわらぬあれそそ
 らもほよりすめりすらすらとあぬまふ
 おまこころはらるるはれくとみゆ
 みるもまよひとあつと海をわたりて
 あつと色そそては海通る目くら
 らげわささ川をたなみらるるを
 らもすうらひれら川や行なり
 お母てらやをそそせれらあすうらを

龍伴

伴美

後頼

忠房

つきとみらうつせとれらうら
 見し海よとてのちもひれらうら
 そととてまわらるるれそと
 うそらもまらとれらも縁よりそ
 とまわらとてあつらうらあつらうら

兼昌

常陸

大を

隣

おゆくれはあつらあけて我やと紙
 つとてまられらやまらるる
 いろつてあつらあつらとれらとて
 とまられらとてあつらとて

龍伴

伴美

教書

舟

寺にみこいともあや
 けりまろをてもりたわ
 之をふしふしふけらふし人り
ゆれれもまままささいいふふるるの中を出房
 けしとれけえれやまふふの中を
 けしふさまりとさききすくとし
 けしふさまりとさききすくとし
 けしふさまりとさききすくとし
 けしふさまりとさききすくとし

本云
 勅本在書写授合

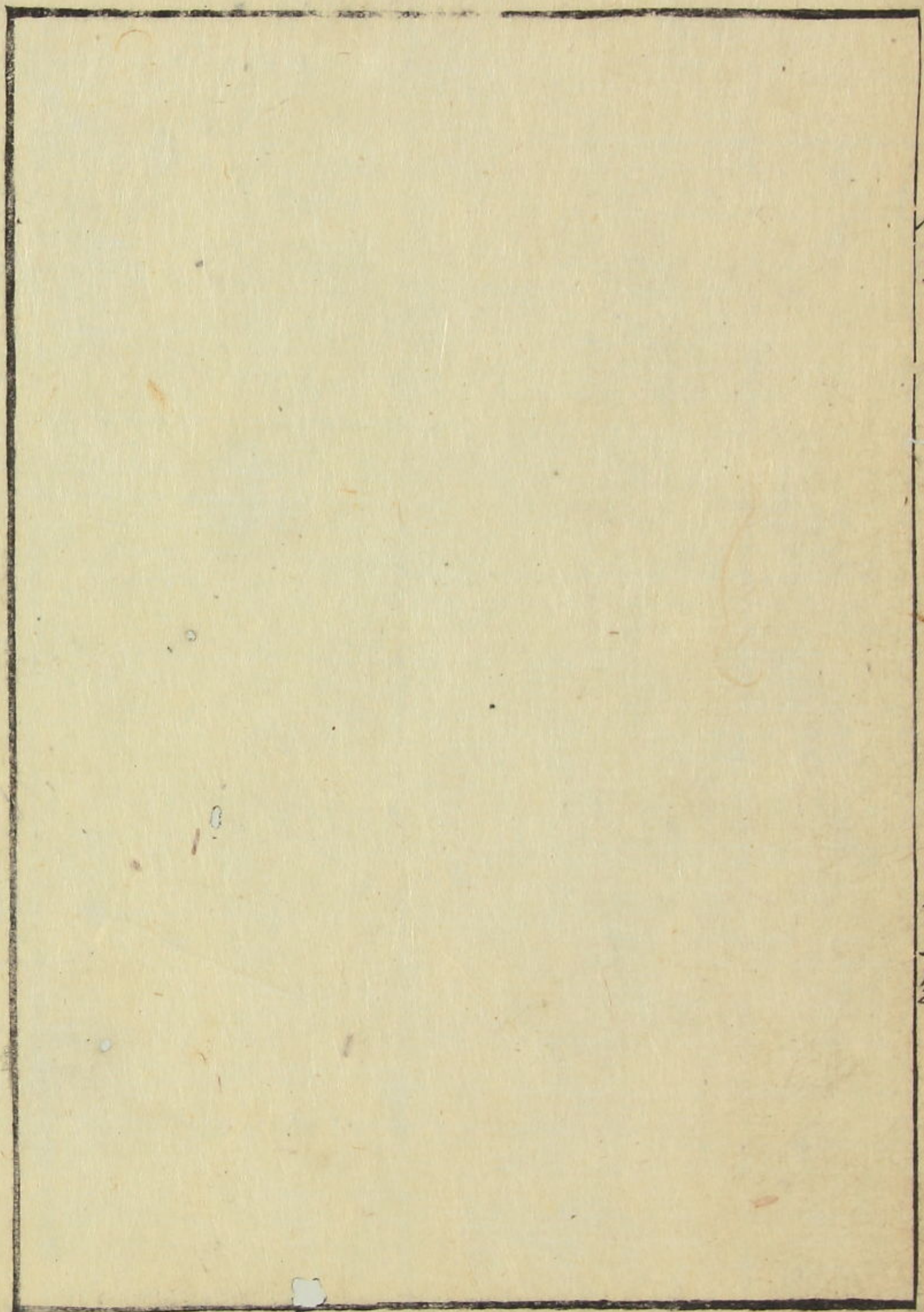
慶長五年仲夏申衛玄旨

寛政十二年十一月以本林川氏一本重校
 延寶四年展仲秋上旬
 林和泉掾板行

百花庵前東初春
 山士商長名之庵
 也香山其号肥前国
 産少仕錫嶋丹後守光
 茂於臣稱雅俗姓斯誠
 氏非小五海と了場へ
 移住せし後百多庵
 とてりし以庵号執者如
 路依同三司実陽公何
 名とて実陽公中伊

門從極町段師範也

三折 妻反ハ如ク大又折ハ細クミルハ之類ハ絶レハ
虚字 宝字 空字 空字 片断 空字 仿断 空字 空字 空字
空字 空字 月お花 紅毛 空字 松の類 通了 空字 空字 空字
明顔部類



三折
明顔部類

